

この『勉強会』と『白光真宏会における各種集会』の違いについて

私たちの勉強会で行なう内容は、白光真宏会の集会とは明らかに異なります。それは、ズーム祈りの会の参加者が、白光の会員以外の方々も参加しておられるからです。（この勉強会にも参加しておられます）

ズーム祈りの会に参加しておられる方々は、白光会員の方が多いのは事実ですが、ピースレターのように白光会員でなければいけないという縛りはなく、一般の方々も参加しておられます。基本的には、神聖復活の印を組める方ならどなたでもウェルカム（歓迎）というスタンスであります。

中澤さんのお気持ちの中では、白光という枠の中で行なっておられ、理解してくださらない方は参加しなくてもよいというクローズドなスタンスでおられるようですが、それが故にたくさんの方が違和感を感じ、ズーム祈りの会の参加者が年を追うごとに減っていったことも事実であります。

私ははじめから白光へのこだわりはまるでなく、特に火曜・木曜・日曜日の夜に、各国の参加者が中心になって印のリーダーをしてくださる日は、いずれ神聖復活の印だけで繋がってこられる世界中の方々が、「ほかの人たちと印を組みたい」と思ったときに気軽に参加できる受け皿になればよいという気持ちでつづけてまいりました。

ですからこの勉強会においても、できれば白光用語は極力使わずに進めてゆきたいと思っておりますが、やむを得ず使う場面もあることをご了承ください。また「白光真宏会は宗教をなくすための宗教です」という話や、「地球上から宗教がなくならなければ地球は平和にならない」という宇宙天使の言葉を覚えてらっしゃる方も多いと思いますが、2020年代の現在が、“いち宗教の教え”にこだわる時代でないことは明白です。

皆さまにおかれましては、そのことを踏まえてお付き合いくださいましたら幸いです。

また、土曜の『動画による祈りの会』で、「由佳先生の英語の翻訳が、祈りの集中力を妨げるので邪魔だ」という意味のクレームがあったことを真紀先生がお話しになり、「海外に広まっている現状も踏まえ、ご理解くださいますようお願いします。」というお話をされていました。

私は大林さんの告別式から帰ってきて、YouTubeで参加してそれを聞き、驚くと同時にデジャブを覚えました。それは、ズーム祈りの会でも、海外の人たちが参加する日に、その日の参加者を見て、「ああ、この人はスペイン語しかわからない人だ」「この人はイタリア語しかわからない人だ」と見たら、その言語での説明をしていますが、「それは余計なことだろう」というご意見をいただいたことがあったからです。

「どうしてそのように心が狭い人がおられるのだろう？」と心に問いましたら、「どのような組織においても、そこに集まる人たちの意識レベルは千差万別なのだから、黙ってその人の天命の完了を祈るのがよい。全体的にはそんなにひどくない。」という答えが出てきました。

「自分の考えが常に正しく、他は間違っている」とか、他人が自分の思い通りにならなければ気がすまないという想念の傾向は、どちらかというと、女性よりも男性の中に根深く残っているようです。

『女性性の復活』が謳われて久しいと覚えておりますが、男性中心社会が終わらなければ地球

が平和な星にならぬことは明白です。

それは、男性は引っ込んで女性が台頭すればよいという意味ではなく、女性の中にも男性の中にも等しく存在している女性性が開花することが望ましいという意味です。

おおむね人間は、40代くらいまでは、性欲というものがあり、異性によく見てもらいたい欲求が想いの世界に渦巻いています。その年代までの人々は、心の中における男性性と女性性の統合はなかなか難しいものがありますが、性欲も枯れ、男でも女でもないただの人（靈止）に戻ってゆく50代以降の方々は、知らないうちに、この男性性と女性性の統合に近づいています。

もちろん何歳になっても美しくありたいと思う女性の心は、この話とは関係ありません。身だしなみに気を配るのは、男女の別なく当たり前のエチケットですので、もっと精神的な面での話だとご理解ください。

話がそれましたが、私は普遍的な真理を求めていました。それ以外の小さな事、いち宗教、いち思想、個人的な信念のようなことにはまったく心が引かれません。

なぜなら、「地球を調和した星にする」という、そのことのために生まれてきたのであって、特定の思想に凝り固まって、他を排撃するような男性性の悪しき面に興味がないからです。

そのようなことをしている方々も、いずれ真理の扉を叩く日が来ます。真理とは、宇宙を創った大元の意思が持つ理念です。

すべての人類はそこから生まれているのですから、否でも応でも真理の中に戻ってくるわけです。その日は、千年後かも知れません。一万年後かも知れません。しかし、奥の奥のそのまた奥の、ずっと奥の意識から観れば、何万年の違いはたいした問題ではありません。

ですから、人類すべてが神聖復活して新しい文明を共に築いてゆくのが理想ではありますが、それを拒絶する選択をする人がいたとしても、私たちにはその人の考えを正す権限はありませんし、正す必要もありません。

私たちはただ、「すべての方々の天命が完うされますように」と祈るのみです。

世界を創っているのは、ひとりひとりの人類の意識なのですから、その事実に先に気が付いた私たちが、まずは身をもって真理を想念・言動行為に顕し、世界人類のお手本になる必要があります。

メールにも書きましたが、お手本がないと地球人類はどうしたらよいかがわからないのです。たくさんのお手本が必要なのです。

短気な人が真理に繋がる道を切り開けば、世界中の短気な人々が神聖復活する道を切り開いたことになります。

悲観的な想念習慣を持つ人が明るく楽天的で無邪気な神聖意識を甦らせれば、それもまた世界中の同様な性質を持つ人々が神聖復活する道を切り開いたことになります。

そのように、さまざまな性質の先達が必要なのです。だから、私たちの祈りのメンバーには、てんでバラバラな性質の人が集まっているのだといえます。

しかし、世界の平和を心から祈り、神聖復活の印を組む人たちが、互いの違いを認め合い、受入

合うことができなければ、世界の未来は暗いものになります。ですから自我を薄める日々の練習が必要なのです。

地球の未来は流動的です。しかし最後には、大調和した世界になります。その時を近くするのも遠くするのも私たちひとりひとりです。

『人間の責任』という隨筆を紹介しましたが、私たちがどのような星の下に生まれてきたのか、今一度生まれてきた意味を省みて、心を新たに輝かしい未来を形成してまいりたいと思います。

私たちひとりひとりが肉体に生まれてくる前の誓いを思い出せれば、地球最後の輪廻転生である今回の人生で悟りを開き、神我一体になる日は近い信じています。

そこに他人の言動行為はなんら一切の影響を及ぼすことはできません。あくまでも、私たちの意志のみが私たちの運命を形成しているからです。

他に感じることを自己の鏡として生きれば、私たちは短期間の間に、格段の魂的進化を遂げることが出来ます。

この勉強会では、そのことも共有してゆきたいと思っております。

最後にひとつだけ、伝えさせてください。メールや電話で、「ご指導いただき有り難うございます」と伝えられますが、私がしているのは指導ではなくただの**共有**です。また、たまに「斎藤先生」とおっしゃる方がおられます、私は先生ではありません。

私はただのラダー（はしご）のひとつであり、皆さまのはしごを昇らせていただく場面があるかも知れないわけですから、今後は人と人を上下関係で見る習慣は手放していただけると幸いです。

私はいつも、「役割の違いがあるだけで、特別な人など何処にも居ない」と思っております。居るとすれば、それは私たちに共通する『いのちの源の意識』だけですが、いのちの大元をも特別視しているかぎりは、私たちは本当の神我一体の意識を自己のものとすることが叶いませんので、誰をも特別視しないワンネスの意識を練習してまいりたいと思います。

無限なる感謝

斎藤雅晴